第２回利賀ダム環境モニタリング委員会　議事要旨

開催年月日/会場	議事	出席委員（敬省略）	議事概要	
令和５年２月 27 日 Web 会議（Teams）	①第１回委員会の指摘事項と対応 ②令和４年度モニタリングの実施状況 ③令和５年度モニタリング計画（案）	阿部 學（日本猛禽類研究機構理事長） 池本 良子（金沢大学名誉教授） 稲村 修（魚津水族館館長） 大井 徹（石川県立大学生物資源環境学部環境科学科教授） 中田 政司（富山県中央植物園園長） 中村 浩二（石川県立自然史資料館館長） 南部 久男（元富山市科学博物館館長）	第１回委員会の指摘事項と対応	・指摘なし。
				・法面整備地の環境配慮型側溝は、小型動物などの生態系の底辺を支える生物を守ることが、生態系の頂点にある猛禽類を守ることになることを認識して頂けると良い。
				・魚類の確認種は、ヤマメ、アユ等、放流魚を含んでいるようだ。漁業協同組合に放流情報を確認し、放流魚の場合は、保全対象から外して良い。
				・タカハヤは、アブラハヤより上流域に生息する種だが、確認されていない。 ・今回確認されたアブラハヤの中に、タカハヤが含まれていないか確認し、種の同定結果をお知らせいただきたい。
				・採捕調査で全種の確認は難しいので、必要に応じて環境 DNA 調査を組み込むことも考えていただければよい。
				・河床の状況は、生物の多様性の面から、石の大きさだけでなく、石が固定されているのか、浮いているのかについても評価できると良い。
				・工事箇所の重要な種の保全措置の必要性については、次年度の両生類調査の結果もふまえ、検討することで良い。
				・下流側の河川のヒキガエル類調査は、分布状況の把握のため、今後も適期に調査を行い、DNA 分析も実施できると良い。 ・陸域生態系の調査箇所でもヒキガエル類(形態，ナガレヒキガエル)が確認されている。DNA 分析を行うなど、雑種ではないナガレヒキガエルが分布しているかの確認も重要である。
				・大気、騒音・振動調査は、工事の工程を踏まえて次年度に延期したとの説明であるが、変更した理由が分かる様にすると良い。
				・ドブシジミの移殖個体は死亡も確認されている。移殖による定着と再生が望まれるため、原因を明らかにする調査も必要と考える。
				・ドブシジミの移殖地は水田脇の水路のため変動することがあり、その影響で死亡することはありうる。他にも自生地や移植に適した環境がないか、探しておけると良い。
			令和 5 年度モニタリング計画（案）	・昆虫や植物については、同定の証拠となる標本や写真を、できるだけ残すようにしてほしい。
				・大きな工事は、一般の方の注目も集まる。調査は可能な範囲で変更と追加を行いながら実施し、また、情報発信しながら進めていけると良い。
				・今後の工事箇所においても極力沢に泥水が流れないように配慮してもらえると良い。
				・令和 4 年度のモニタリングの実施状況の審議の中で、今後の調査への要望がでている。対応について検討を行い、次年度のモニタリング計画に反映して欲しい。